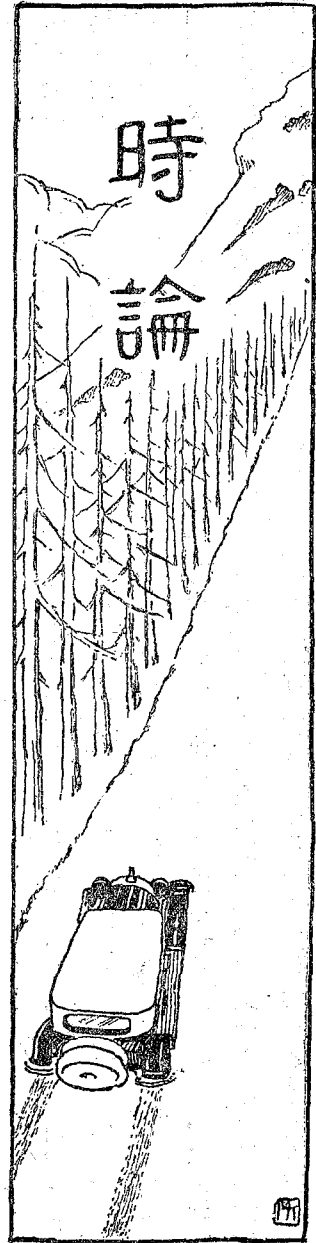


現内閣に望む

××新聞記者 大村美智



政友會内閣は放漫な政策を實行して行き詰り遂に瓦解した。而して吾人は國家の爲に其の瓦解を心から祝したのである。併し總辭職を見て喜んだことは必ずしも前内閣のやつた政策の全部を攻撃する意味とは爲らぬ。あの不當な人事行政やら無理算段をして急拵えに出来上つた鐵道の建設政策やら、非難攻撃すべき問題は内治外交ともに山積してゐる、其の澤山の問題の中で吾人が其の成立を歓迎した問題が唯だ一つある。夫れは自動車の機能を國民生活に利用せしむる爲に重要な府縣道の改良を助勢しやうとしたことであつた、重要府縣道六千里の内千五百里を十年間に改良する爲に、本年度に

於て二百萬圓を支出する事業であつた。固より此事業も完璧を期したものは言へない、一方に鐵道の延長計畫を高調しながら夫れと重複して道路を計畫し兩者の方針が符合しないことや、一ヶ年五六百萬圓を支出せなければ十年間に完了しない事業に對して初年度に僅か二百萬圓を計上して後年度の支出を曖昧にし、牛頭狗肉の嫌があつたことや、更に其の政策を總選舉に利用したこと杯は、大に非難すべき點であつたが、事業其のものは國民生活の要求に叶つた計畫で、朦朧内閣にしては不似合な程の名案として其の成立を歓迎し、假令内閣の希望するやうに十年間に其の事業が完成されなくとも、之に依つて我が國道路の改良が長足の進歩を來すであらうことを期待し、其の實現の早きを望むで已まなかつた。

放漫政策で行き詰つた後を襲つた現内閣は、緊縮政策を實行するのが當然であつて吾人も亦夫れを望むのであるが、其の緊縮は合理的に行はなければならぬ、一方消費を節するに對立して生産の獎勵を測らなければならぬ、従つて生産力増加之爲に計畫された産業道路政策は、現内閣に依つて當然維持さるゝものと思つて居たにも拘はらず、近時發表された實行豫算に於ては全部之を否認し削除してゐる、之を見て吾人が期待した、現内閣の緊縮政策の實行に聊か疑問を懷かしむるやうに爲つた。

固より大消費者たる國家が經費を節約して、民政黨從來の主張を實現して貰ひたいのであるが、夫れは理由の存する所に就て希望し又は言ふのであつて、豫算天引主義のやうに何でもかでも豫算を削減して歲計表に現はれる數字を小さくせよと言ふのではない、試に地方生活者の實情を見て貰ひたいものだ、生産實費を低廉にして大量生産を計畫しても、交通機關が不便な爲に生産品に過重な運送費を負増せしめられて、生産品を思ふやうに販賣することが出来ない、之と同時に消費する品物にも亦過重な運送費が附加されて生活は益苦しくなる、夫れで交通機關の完備を願つても、容易に鐵道は敷設して呉れず、古來からの道路は、あるには在つても所謂人肩馬背の交通に適するだけで自動車が通るやうなものは、見

度くつても無いと言ふやうな有様であつて、生活の不安は交通機關の不整備に在ると言つても過言では無い有様である。之を救済し交通機關を改良することは、國民の生産力を増加して世を擧げて緊縮——緊縮を口にせしむる必要が無いやうに爲る基では無からうか。であるから古來からの道路の局部を改良して自動車交通が可能となるやうに、最小限度を企てることは、我が國民生活の現状からして緊急已むを得ない事業と言つて可い、従つて如何に緊縮政策を練るにしても、是だけは現内閣の當然考慮せねばならぬ重大事である。

放漫内閣が獎勵して出來た地方道路改良費は、其の總額四億圓に達してゐる、是等の龐大な豫算の總てを實行せしむることは、假令夫れが夫れを議決した地方議會の意見に反するにしても、政府の緊縮の精神に照して排斥すべきことである、併しながら其の事業中には緩急の階段があつて、輕重の差もある筈であるが、夫れ等のものゝ内より右に述べたやうな重要道路を選択して改良せしむることは、地方議會の道路政策に關する眞意を尊重しないと云ふ非難に答へ、短的に言はゞ自治權を尊重したことゝも爲るのでは無からうか、固よりは是等道路改良費の財源は其の大部分は起債に依つてゐる、従つて之を許容することは起債を是認することゝ爲つて所謂非募債政策に反することゝ爲るが、夫れに依る國民利得に計量して緩嚴敷數を得已むを得ない生産的起債に對しては其の制限を一部解除するのが、寧ろ民政黨が所期する整理の根本義に合致するのでは無からうか、若し一部論者が言つてゐるやうに、道路は古來の儘に放任して置いても何等の危險を惹起しないから全部中止せしむると言つた調子の考案は、道路を改良すれば交通が好くなつて親譲りの大森林を伐採するから都合だと言ふ論と同一である。併し伐採後の植樹を獎勵することを忘れて伐木を禁止する如きは吾人の採らないところであつて、吾人は伐木を許して植樹を獎勵せしむる調子の道路政策の實現を希望するのである。此見易い主張をも尙排斥して、地方の要求を抑え、地方生産業の發達を阻止することゝもならば、現内閣は自治權を尊重せず、失業者をも救済しない

のみならず更に農村政策に無關心なりとの非難攻撃を受け民政黨に道路政策無しと言はるゝであらう。

今や五年度豫算編制のときである、上述した地方事情を克く斟酌し適當な道路政策を樹立し、前内閣が命名した産業道路の政策が現内閣の看板に反するものとせば、其の名稱位は幹線府縣道と言つても其他何でも可い、兎も角國民生活上要、求の急な道路政策を樹つること、夫れは國家の爲否な現内閣の爲に採るべき良策である、財政通の居ること多きを以て誇る現内閣が見易き財政政策を採らずして倒閣の憂目を見ないやう、此際内閣諸公に進言する。